

まちづくり懇談会内容【公開用】

日 時：令和2年11月8日（日）18：30～20：07

場 所：中里公民館

出席者：12人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. これからのまちづくり（資料1参照）

- ・栗山赤十字病院の改築について

4. 懇談

5. その他（情報提供）

（1）光回線の全面開通について

（2）栗山高等学校と介護福祉学校の状況について

（3）新型コロナウイルス感染症対策について（資料2参照）

- ・町民の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料2-1参照）

- ・事業者の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料2-2参照）

- ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（資料2-3参照）

（4）空き家の情報提供について

6. 閉会

《懇談内容》

【栗山赤十字病院の改築について】

町長：診療科などは、他の会場でもいろいろな意見が出ている。たとえば、整形外科など午前中だけの診療なので、午後からも診療してほしいといった意見や、眼科や泌尿器科、皮膚科は週1回診療の出張医になる。週1回だと診療するタイミングを逃すと1週間空いてしまうので、週2回以上にしてほしいなどの意見が出ている。

町長：病院の総合受付から、内科などの診察までの距離が長いので、新しい病院は導線なども考えた構造にしてほしいといった意見もある。また、改築後の病院経営なども考えて、近隣の病院と診療科を連携して、12の診療科目を減らしてはどうかという意見もあった。

町民：建設後、支払いを32億円が交付金。14億1000万円を30年間、病院で支払いをすることになるが、町から栗山赤十字病院へかなりの額の補助金を出していると思う。それ以外で、14

億 1000 万円を払えるのか。町から補助を出していながら、支払いができるかどうかの心配がある。

町長：町から、約 1 億円を栗山赤十字病院へ補助している。内訳は、救急告示病院と不採算医療ということで出している。国からは 8000 万円の補助があるので、実質は 2000 万円が町の補助になる。言い換えれば、町が 1 億円出さないと 8000 万円が国から入らないということになる。

町長：今回のようにコロナなどで受診者が減るなど、収益に増減はあるが、黒字になることもある。ただ、累積赤字が 30 億円あるので、黒字の時に回収している。現在 136 の病床があり、100 床に減らすことで計画しているが、国は病院の統合改善や縮小をする医療機関に対して、補助をする取り組みをしている。現在、国からの交付税 8000 万円から 100 床に減らすと交付税が倍に増えることになる。国の制度などをうまく活用してやっていきたいと考えている。

町民：赤十字は世界規模の病院だと認識している。その組織から、病院を新しくするのにまったく援助はないのか。

町長：独立採算制をとっているのので、地域でどうにかしてもらおうようにしている。一番心配していたのは、栗山赤十字病院の撤退。何とか経営を一緒に頑張ってもらって栗山赤十字病院を存続してもらおうようにしてもらいたい。この町に総合的な病院を維持していくことが町の考えでもある。

町民：近隣の市町で一緒に病院を作ることができなかった理由を聞きたい。

町長：町で病院を経営していくことに対する思いはそれぞれある。長沼も建物の老朽化が進んでいる中、長沼と連携して総合病院の拠点長沼に置くという話にはならない。町の合併などがあって病院を拠点化することはあっても、町同士で連携して拠点病院を置くことは難しい。

町民：建てるのであれば何階建てになるのか。

町長：設計はこれからなので確かではないが、7200 m²の面積で、おそらく 3 階建てになると思う。

町長：今の栗山赤十字病院は、敷地面積 15000 m²に延べ床面積 8700 m²の病院が建っている。今の病院の南側に 7200 m²の建物が建てられる土地がある。建設後に移動して既存の病院を解体することになる。病院は建設中も休まないで行えることになる。

町民：ヘリポートは作らないのか。

町長：札幌など大きな病院にヘリポートがあるので、作らない。

町長：栗山赤十字病院の道路向かいにある薬局の移転は、法律上の問題がある。担当から説明する。

日赤改築室長：平成 6 年に、医薬分業の制度ができ、薬の処方（医者）と調剤（薬剤師）を分けた。院内から薬局がなくなった。院内の薬局は多くの薬剤をストックできない。人件費の問題。院内報酬など、経営が難しく、どうしても建物の外になった。また、道路をまたがないと薬局を建ててはならないということもあり、同じ敷地に薬局は建てられないことになっている。規制緩和してきているが、歩道に出ないと薬局が建てられない。その後、敷地内に薬局を建設してもよくなったが、経営は別にするようにということになった。

町長：今 3 件の薬局があるので、3 件とも敷地に入れるわけにはいかない。栗山赤十字病院とも話し合っていきたい。

町長：建設場所について、移転する場合は約 6 億円の解体費が借入金の対象にならないが、いろいろな可能性を考えている。候補地として意見が出ているのは、栗山駅周辺や、角田地区、富士の栗山町農産物検査場付近はどうかといった意見も出ている。国へ解体費用の借入金に対する要望をしているが、なかなか難しい。

町民：敷地内に薬局がなくてもそんなに不便はないと思う。

町長：高齢者が横断歩道を渡るところをよく見かける。南側に病院を建て替えると、ますます薬局は遠くなってしまう。

《質疑応答》

【その他（情報提供）】

町民：パチンコ店の前の通りから、室蘭本線へ抜ける町道がある。栗山町農産物検査場から50mほど手前になるところの道路が低くなっていて、雨水がたまって、側溝に水が流れない。田んぼに水が流れるのでそれほど被害はないが、泥が流れて畦が狭くなってしまう。道路の水が側溝に流れるように修繕してほしい。

建設総括：現地を確認したいと思う。

町民：冬の除雪のことで、老人世帯の除雪を町でもらえるということを知りますが、パチンコ店の裏などの私有地の除雪はしてもらえるのか。

建設総括：パチンコ店の裏の道路になるのか。

町民：パチンコ店の裏と言うよりもホームセンターの裏になるかと思う。下水道は入っている。

建設総括：そこは、私有地になるので除雪はしない。町道でなくても、一般の人の往来がある道路であれば、除雪することもあるが、基本的に除雪はしない。そこを除雪しないと何か支障はあるのか。

町民：高齢者が一人住んでいるので、その人が家から出られなくなる。

建設総括：それは、ホームセンターが建設されたことが原因なのか。

町民：ホームセンターができる前からそのような状況だった。

町民：ホームセンターの敷地に入れないので、自動車整備工場側から出てくることになる。

町民：今年からその道路は除雪が入るようなことを聞いた。

建設総括：斎場の所の横の道路を今年から町で除雪することになった。

町民：その道は、昔から町で除雪していたと思うが。

建設総括：町で除雪していたわけではない。近所の方がその道路を除雪していたが、高齢になり除雪することができなくなったので、町で除雪してもらえないかといった要望があり、今年から町で除雪をすることになった。もともと、町道にできないかといった要望だったが、それは難しいという回答で、除雪だけは町で実施するという事になった。今シーズンから町で除雪を行う。

町民：私が言っているのは、その私道に住んでいる人と、その奥に住んでいる人のこと。

建設総括：それは個人の話になる。町の除雪とは違う問題になると思う。

町民：腰の曲がった高齢者がとても除雪できるとは思えない。

町長：それは道路の除雪とは別の福祉介護の話になるような気がする。

教育総括：元福祉総括なので、お話をさせていただく。その道が私道でとても厳しいのであれば、福祉に相談してもらって、必要であれば福祉に話をしてみたいと思う。道路はずっと除雪されていないのか。

町民：私が除雪しないとその人たちは家から出られない。

教育総括：除雪に関しては、地域の方でお互い協力してもらいたい。後ほど福祉担当と話をし、現地を確認させてもらう。

(福祉課から質問者へ回答)

町道ではないため、町では除雪は行わない。社会福祉協議会で行っている愛らぶ事業を活用し、地域での除雪が取り組めないか湯地自治会長に状況説明した。湯地自治会では、12月中旬くらいまでに自治会役員会で協議し、愛らぶ事業を活用して湯地自治会で除雪をするのか、またはこの事業を活用してこれまで通り、中里自治会に除雪をお願いするのか検討することになった。

町民：私の感覚だと、下水道のマンホールもあるのに、下水道のトラブルがあれば、町で対応しなければならなくなるような道路なのに、町道ではなく私道になるのか。

町長：昔は、地域の方をお願いして私道に設置させてもらっていたこともあった。

町民：町内でコロナの感染の情報はないのか。

町長：町内ではコロナ感染者の情報が入っていない。ただ、公表されていないが、南幌でも感染者が出ているという話もある。栗山でも今後コロナの感染は出てくると思う。もし、コロナが出た時には感染者に対して誹謗中傷をすることのないような体制にしていきたい。

町長：明日(11月9日)から栗山赤十字病院でコロナの検査ができるようになる。担当から説明する。

日赤改築室長：栗山赤十字病院に発熱外来が明日(11月9日)からできる。病院の横にプレハブが建てられている。発熱や味覚症状などの症状があるなど、コロナが疑われるときは、栗山赤十字病院へ電話をしていただいて予約をし、受診していただくことになる。検査が必要であれば、抗原検査を受けることができる。

日赤改築室長：PCR検査は検体を札幌に送って検査する。抗原検査は栗山赤十字病院で検査ができる。発熱などの症状が出た場合、まずは電話で連絡いただきたい。検査の結果、陽性となった場合は、栗山赤十字病院から連絡があり、岩見沢市立病院への入院となる。もしベッドが満床であれば、札幌市内のホテルでの療養となることもある。個人的に検査を受ける場合は、65歳以上であれば、国や町から検査費用の補助が受けられる。電話での予約になる。

町長：65歳未満は、自己負担になるが、希望される方は検査を受けていただきたい。

町長：コロナを克服するためには、検査が大事になってくる。

町長：コロナの関係でいえば、農業者関係では、町はこれまで全体9億円くらいをコロナ対策で使っている。そのうち6割が国のコロナの交付金や国の補助金、有利な起債などを使って、町の実質的な持ち出しは5000万円くらいにとどめている。そのような中、農業者支援の関係は、まだ行っていない。中小企業や飲食店などの支援は行っているが、農業者への支援についての枠は用意してある。どのような形で支援するのがいいか、産業振興課と農協で協議をしている。これから資金に対する支援か、コロナの影響があったところへの支援かを検討していく。

町長：農林水産省で、次期作の高収益作物の関係で、こちらは玉ねぎだとか、既に申請されている方はいるのか。

町民：申請したけど、認められなかったと聞いた。騙された。

町長：先ほど、稲津議員の国政報告会に行ってきたが、その中で国会議員でも、農林水産省の仕事の進め方について憤慨をしているというか、困っている人に対して梯子を外すやり方について、どうなのかといったことで議論をしている。これから国はこのようなどういうふうにしていくのか、はっきりはしていないが、何らかの対策をしていくと稲津議員は言っていた。

町民：国会議員が言っているけど、どうなのか。

町長：先に投資されている方もいる。

町民：それを当てにしているのか。

町長：先に投資された方をどのように扱うか、その人だけを救えばいいのか、いろいろ議論が出ている。いずれ、農協を通じて説明があると思う。何とかしたいと思う。

20：07 終了